アダルト・アタッチメント・インタビューに見られる 「甘え」とアタッチメントの表現

近藤清美

(帝京大学文学部)

キーワード：甘え、アタッチメント、アダルト・アタッチメント・インタビュー

Description of “Amae” and attachment shown in the Adult Attachment Interview

Kiyomi KONDO

(Faculty of liberal arts, Teikyo University)

Key Words: “Amae”, attachment, Adult Attachment Interview

目 的

土居健郎が『甘え』の構造(土居, 1971)で取り上げて以来, 「甘え」は日本人特有の対人関係のあり方として世界中から注目を浴びてきた。「甘え」は, 基本的には, 「甘える」ー「甘やかす」という関係性の中で, 力の弱い者から強い者へ「かなえてもらえるものと一方的に予想しながら相手に頼る」とことと定義することができる。

一方, アタッチメントは Bowlby が提唱した概念であり, 危機的場面でアタッチメント対象に保護と世話を求めて安心感を得る関係性であり, 弱い者から強い者へ, 守ってもらえるという予測をもって頼りにするという点で, 「甘え」と共通するところがある。そこで, しばしば, 「甘え」とアタッチメントは同一のものと見なされがちである。また, 日本における母子関係を表す概念として「甘え」が注目されるあまり, 日本の親子関係には当てはまらないという議論がなされることすらある (Rothbaum et al., 2000)。

そこで, 本研究では, 「甘え」とアタッチメントをめぐる混乱を整理するために, 主として原家族との関係性を語ってもらうアダルト・アタッチメント・インタビュー (Adult Attachment Interview: AAI) の記述を用い, その中で表現されている「甘え」に注目し, 「甘え」とアタッチメントがどのような関係にあるのかを明らかにすることを目的とする。

方 法

研究協力者：札幌長期縦断研究に参加した母親, 45 名, (平均年齢, 31.2 歳 SD=4.63) で一人を除いて初産であった。

手続き：2 名を除いて妊娠中にアダルト・アタッチメント・インタビューを行った。AAI は半構造化された面接手続きであり, 5 歳から 12 歳までの幼少期の親との思い出を問うものである。所要時間は平均して約 1 時間であった。

分析方法：AAI の逐語録に基づき, 「甘え」について, 「かなえてもらえると予想して」要求したり援助を求めたりするエピソードを抜き出した。その内容に従って「甘え」の分類を行い, 出現頻度を数えた。

アタッチメントの分析は, 「アタッチメント・スクリプト：主人公が窮地に陥りアタッチメント対象に助けを求めて解決を得る」の表現を抜き出すとともに, AAI の評定法に従ってアタッチメント表象の分類を行った。

表 各アタッチメント表象における甘えの表現

	情緒的甘え	物質的甘え	操作的甘え	甘えの拒否	甘えられない関係	言及なし
安定型 n=30	22(73.3%)	10(33.3%)	7(23.2%)	5(16.7%)	6(20.0%)	1(3.3%)
不安定型 n=15	3(20%)	4(26.7%)	2(13.3%)	2(13.3%)	1(6.7%)	6(40.0%)

数字は, 各「甘え」を示した研究対象者の人数

結 果 と 考 察

AAI における「甘え」の表現には 3 種類があった。

1) 情緒的甘え：「母に膝枕をしてもらいたくて甘えに行った。」「地震があつて怖かったので親の布団にもぐりこんで寝てしまった。」, 情緒的甘えの 84.0% はアタッチメント・スクリプトを示すものであり, 情緒的甘えとアタッチメントは重なるものと考えられる。「甘え」とアタッチメントが似たものであるのはこの点だけである。

2) 物質的甘え：「入院中, 何か欲しいというとすぐに買って持ってきてくれた。」「漫画の影響で剣道がしたいといったら, 道具を買ってくれた。」もっぱら物質的なものを要求してかなえてもらうものである。

3) 操作的甘え：「大してお腹が痛くないのに大げさに痛いと言って, 学校を休んでしまった。」「母が立ち話をしていたので, スカートを何回も引っ張ってやめるまでした。」過剰に要求を示して何とかして望みを押し通そうとするものである。

また, 「甘える」行動をするが受け入れられなかったというエピソードも語られた。さらに, 「怪我しても怒られると思って自分で絆創膏を張って, 親に言わなかった。」「ママーと言ってだっこしてもらって存在ではなかった。」といった甘えを受け入れられない関係性を示す表現もあった。

アタッチメント表象と関係を下表にまとめたが, 安定型は一人を除いて全員, 何らかの「甘え」の話をしたが, 不安定型は 6 名 (40%) が言及しなかった。また, 情緒的甘えに関するエピソードを安定型では 22 名が語ったが, 不安定型では 3 名だけで, これらはいずれも統計的に有意な差異であった。注目すべきは, アタッチメント表象が安定しているものは, 「甘え」のエピソードを多く語るが, 不安定型でも操作的甘えや甘えが拒否されたこと, さらに, 甘えられない関係であることを語る場合があり, アタッチメント表象と思い出として語る「甘え」の種類に関連がないことである。

引用文献

土居健郎 (1971). 「甘え」の構造 弘文堂
Rothbaum, F., Weisz, J., Pott, M., Miyake, K., & Morelli, G. (2000). Attachment and culture: Security in the United States and Japan. *American Psychologist*, 55, 1093-1104.